

にじたま！ Vol.29

2019年 夏号

多様な性のあり方と、幸せと人生と笑いを考える、にじいるたまご通信！



スクランブルエッグ

## IDAHOメッセージ展

多様な性にYES!

青森

開催のお知らせ！

AOMORI

■日時：2019年7月6日（土）12:30～19:00

■場所：アウガ 5F カダール AV 多機能ホール前  
青森市新町 1-3-7

☆どなたでも無料でご覧いただけます

毎年5/17の IDAHOT (LGBT 嫌悪に反対する国際デー) に寄せられた、当事者や応援する人たちからのメッセージを、今年も青森インターナショナル LGBT フィルムフェスティバル会場前にて展示・紹介します！

当日メッセージをお寄せいただけるコーナーの他、今回は小さな交流スペースも会場の一角に設けます。オープンスペースですが、スクランブルエッグのメンバーがお待ちしておりますので、お気軽にお声がけくださいね(\*^^\*)

※このイベントは、やっぱ愛ダホ！ idaho-net.の取り組みに賛同しています。

※イベント名は、以前からの表記である IDAHO としています。



昨年のメッセージ展の様子です。

ご来場、お待ちしております！

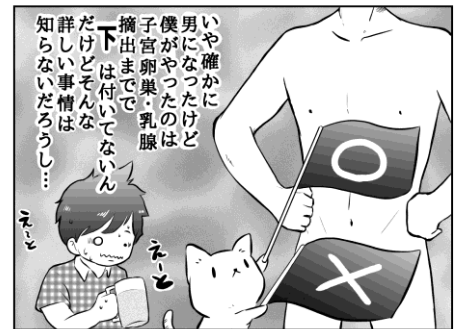


# トランスジェンダー

FtMとは、Female to Maleの略。生まれた時に割り当てられた性別は女性だけれど、心(性自認)は男性である人のことで、LGBTのT(トランスジェンダー)に該当します。2001年にドラマ・金八先生で、上戸彩が当事者の生徒を演じたことで話題になり、広く知られるようになった「性同一性障害」はこのTに含まれます。身体の性別を望むものに近づけるための手術は「性別適合手術」と言われますが、その中身はいくつかの手術を組み合わせたもので、決して容易なものではありません。ホルモン療法も含めて、どの治療をどこまで行うかは人により異なります。

今回のケース、相手の男性はよかれと思って温泉に誘っていると思いますが、一緒に入れない事情があるかもしれないことも心に留めておいてもらえるとありがたいですね。(文=創)

## たまにある誤解の話

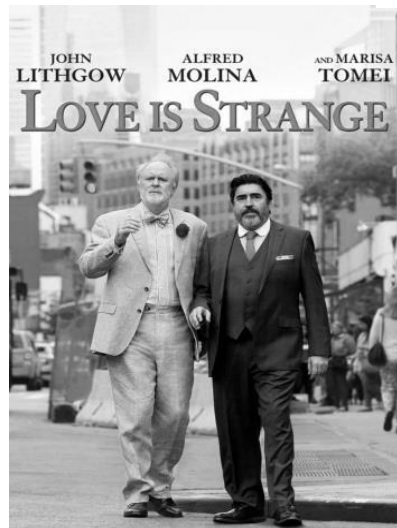


## ちよこっとコラム

男女の性差を感じさせないような「ジェンダーレス制服」の製作が進んでいるのをご存知ですか? 学生服製造の全国シェア7割を占める岡山県で、心と身体の性が異なるトランスジェンダーの生徒にも違和感なく着用してもらおうという配慮から製作が進んでいるそうです。現在では全国の小中高のうち、約800校が採用しているとのことです。

実は私が中学生の時、女子はスカートとスラックスの制服でした。スカートが嫌いだった私にはとても助かる制服でした。スカートをはかなければならぬ時(入学式・卒業式、そして何故か修学旅行)もあり、その時は憂鬱でしたが、普段の生活では嫌な気持ちになることはなく助かっていました。「ジェンダーレス制服」の存在がもっと知られて、採用してくれる学校が増えていくといいですね。

(文=しーも)



### 『人生は小説よりも奇なり』

脚本/アイラ・サックス(監督)、マウリシオ・ザカリーアス  
配給/(株)コムストック・グループ  
2016年/アメリカ/95分

ニューヨークのマンハッタンに暮らす画家のベンと音楽教師のジョージ。二人は39年連れ添った末に念願叶って結婚する。幸せと共に新たな人生を歩み出そうとした矢先、同性愛を理由にジョージが勤務先をクビになってしまい...  
根強い差別ゆえの様々な問題に立ち向かいつつ、お互いに相手の存在の大切さを再確認しながら、日々を二人らしく歩もうとするその日常が淡々と描かれています。家族、友達、恋人...etc. 大切な人を想いながら観てほしい映画です。

(文=まる)

コミュニティは  
Community



インフィニティ Infinity  
無限大!?

### 急な原稿依頼!?

「突然ですが、今度のにじたまに記事書く気ない?夏だけw←」「わほー!ありがとうございますー!書きますー!何書いたらいいかわからないですけどもーw」

1か月程前のLINEを読み返してみると、確かにそう書いてある。……そうだ、あの時、自分はコミュニティについて煮え切らない想いを抱えていて、声をかけていただいたのが嬉しくて、つい二つ返事でお引き受けしてしまったのだ。今、改めて自分の計画性のなさに頭を抱えている。(そんな私にでさえ変わらず親切にしてくださる企画担当さん。いつも本当にありがとうございます)

今回、テーマでいただいた「コミュニティ」については、日頃から言葉にできないもよもよを抱えていたのだけれど、いざ書こうとするとこれがなかなか難しい。そもそもコミュニティって何のことだっけ。試しにネット検索してみても「共同体」とか「地域社会」とか「深い結びつきが〜」とか、いまひとつピンと来ない。ひとまず「LGBTコミュニティ」といえば、全国各地にあるLGBTに関する団体さんとか、そこに集い合う仲間とのつながりとか、そんなイメージで良いんだろうか。

その点で言えば自分はLGBTコミュニティに本当にお世話になってきた。もちろん、スクランブルエッグ(以下、たまご)もその一つである。

もう随分昔の話になるけれど、たまごに初めて参加させていただいた当時、自分はまだ大学生だった。LGBTについて何となく意識し始め、何か行動に移したい気持ちはあるものの、周囲の目ばかり気になってしまい、あと一歩踏み出せない。



### コミュニティに入るきっかけは……

そんな自分に、当時の代表さんが声をかけてくれたことが、LGBTコミュニティに関わるきっかけとなった。今思えば、当時、自分はおそらくQ(クエスチョニング)で、自分自身の立ち位置を認識出来ず、性自認・性指向ともに揺らいでいた。自分の輪郭がぼやけていて、せっかく出会えたコミュニティのメンバーにさえ、自分が何者であるかを上手く説明出来ない。そんなモヤモヤや後ろめたさについて、根気強く親身になって話を聞いてくれる人がいたことが本当にありがたかった。たまごの活動や人々との出会いは全てが新鮮で、その場に参加出来ること自体とても嬉しかった。

自分にとって、たまごはLGBTの世界への入り口であり、当時、声をかけていただくことがなければ今の自分はなかったかも知れないと思う。今日まで歩を進める力を育んでいただき、心から感謝している。(ついつい当時の想いが溢れ熱く語りすぎてしまったが、それでも原稿は半分近く白紙のままである。私の焦りもダダ漏れである。)



### いつしかかけがえのない居場所に

その後、仕事の関係もあり生活の拠点を移してからは、多くのご縁にも恵まれ各地のLGBTコミュニティを知ることとなった。主催者が違えば団体のカラーも様々であり、そこに集う人々が期待していることも多種多様であった。たまごに初めて参加した当時の私のように勇気を振り絞って会場に足を運んでくれた人もいれば、テーマにひかれて参加した人、つながりや仲間との交流を求めて来た人、自分や社会を変える力が欲しい人、社会に向けて発信し行動しようとする人……。➤

# ～コミュニティについて考えてみた～

## 安心できる居場所を

そうした多様なコミュニティがあったからこそ、集団に馴染むのが苦手で、緊張しがちな自分でも、信頼できる仲間と出会い、大切な関係を築くことが出来た。自分にとっての LGBT コミュニティは、自分が自分で居ることが無条件に許されるかけがえのない居場所となっていた。それぞれの立場や願いがあり、目的や実現したいことも違えば関わり方も違う。人の数だけ個性があるように、コミュニティにもそれぞれに個性があり、それによって助けられる人、安心できる人がたくさんいるのだと思った。多彩なコミュニティがあることは、とても豊かで幸せなことなのかも知れない。そうした多様なコミュニティがあったからこそ、集団に馴染むのが苦手で、緊張しがちな自分でも、信頼できる仲間と出会い、大切な関係を築くことが出来た。自分にとっての LGBT コミュニティは、自分が自分で居ることが無条件に許されるかけがえのない居場所となっていた。

一方、時が経てば自分も周囲も否応なく移り変わってゆくものである。進学や転勤、結婚、子育て、介護など、それぞれが色とりどりの関係性の中で、一人ひとりの人生を生きているなあ実感する。

コミュニティ自体もある意味では生き物のようなもので、そこに関わる一人ひとりが支え作り上げているからこそ、変化し続けることが当然の在り方なのかも知れない。自分はそのことを少し寂しく思ったりもするけれど、だからこそ、その時々で、自分が安心できる居場所を見つけていくことが必要なのだろうと思う。

## 自分は自分で良い

特に、新しい家族や恋人との間に自分の居場所を見つける人も多いけれど、個人的には、そういった関係性を持たない人も望まない人も、どこかに自分が安心できる居場所があればいいなあ、ぼんやり思っている。

人との出会いは一期一会というけれど、様々なコミュニティを通じ、色んな人との出会いを経験して良かったなあと思うことは、「自分は自分で良い」と素直に感じられるようになったことだ。価値観は様々あるし、所属する集団が変われば、たまたま自分がマイノリティになってしまうことも、共感を得ることが難しいこともある。

だからと言って、自分の素直な気持ちや感覚をなかったことにする必要はないのだと、たくさんの居場所を与えてもらった今だからこそ思えるようになった。これまでの出会いや経験が自分自身の軸となり、自信や誇りとなって、今でも自分を支え続けてくれているからである。そうしたコミュニティや人との出会いがこれからもあればいいなあ、と思う。

(文=のっこ)



## 編集部 より

今回は、いくつかの LGBT コミュニティを訪ねたり、地域コミュニティを離れたりした経験のある方に、ご自分の視点から見た“コミュニティ”について自由に書いていただこう！ という企画です（自由すぎて戸惑わせてごめんなさい……）。私たちは普段の生活では、地域や仕事、学校に関するグループに属していることが多いのではないのではないかと思います。特に実家暮らしの場合は、地縁血縁が色濃く関わってきます。けれども多様な性の当事者にとっては現状、そういった既存のコミュニティでは満たされない、あるいは居づらいものがあるように感じています。私たちにとってコミュニティとは何なのか。そんなことをぼんやりと考えてみたいなあ、と思っています。

(文=創)